

## 本州におけるワタリガラスの初記録

西出隆<sup>1</sup>・武田栄悦<sup>2</sup>・阿部篁子<sup>3</sup>・佐藤正生<sup>4</sup>・船橋功<sup>5</sup>

1. 〒018-2305 秋田県山本郡山本町外岡字外岡北 247-5
2. 〒018-3501 秋田県北秋田郡田代町岩瀬字杉子沢 1-6
  3. 〒010-1604 秋田市新屋松美町 5-52
  4. 〒011-0904 秋田市寺内蛭根 3-11-23
  5. 〒010-0342 男鹿市脇本字石館 40-2

### はじめに

ワタリガラス *Corvus corax* は、北アメリカ、アイスランド、イギリス、ヨーロッパの一部と極北地の南部を除いたユーラシア大陸の大部分、北アメリカの大部分、グリーンランドなどで繁殖する。このように広い範囲に生息するにもかかわらず、ごく寒いときに近距離の移動をする位で、そのほとんどが留鳥である(高野 1981)。日本には、冬鳥として北海道の東部と北部の海岸に飛来する(藤巻 1997)。記録のあるのは、利尻島、礼文島、知床半島(高野 1980, 1981, 真木 2000)などで、利尻島には12月に渡来し、3月まで留まっており(寺沢 2000)、知床半島では毎冬越冬する(藤巻 1997)。利尻島と礼文島で繁殖しているとの報告もあるが(清棲 1966, 小林 1976)、夏期の観察例はなく、巣卵の発見もないことから、北海道では冬鳥である(高野 1980, 1981)。また、本州からの記録は皆無である(藤巻 1997, 叶内ほか 1998, 五百沢ほか 2000)。

筆者らは2002年 3月10日に秋田県由利郡大内町中張(39°27'N, 140°11'E)の水田で70羽ほどのハシボソガラス *C. corone* の群れに混じるワタリガラス 4羽を観察・撮影した。また、2003年 3月15日に能代市小友沼(40°10'N, 140°03'E)の氷上で、オジロワシ *Haliaeetus albicilla* が食べ残した ナマズ *Silurus asotus* にあつまる12羽のハシブトガラス *C. macrorhynchos* とハシボソガラスと行動する 2羽のワタリガラスを観察・撮影したので報告する。

### 観察地と記録

秋田県でワタリガラスが観察されたのは、未確認記録を含めると図 1に示した 4か所からである。

#### 1. 秋田県由利郡大内町中張

2002年 3月10日、国道 105号線から分かれた刈和野街道を自動車で走行中、大内町中張地内で70羽程度のハシボソガラスの群れを発見し、自動車をとめて観察したところ、雨の中で聞きなれない鳴き声が聞こえた。その鳴き声は少し内にこもったようなカッポン・カッポンと聞こえてくるもので

---

2004年 1月14日 受理

キーワード: 秋田県, 越冬記録, 初記録, ワタリガラス

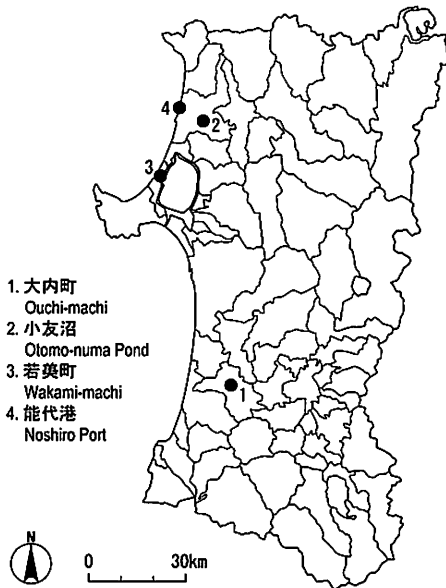


図 1. ワタリガラスが観察された位置。それぞれの番号は本文中の番号と対応する。

Fig. 1. The sites Ravens were observed.

あった。手分けして周囲を探したところ、街道北側の沢にそって広がる水田で採食するハシボソガラスの群れのなかに、ワタリガラス 4羽を発見した(図 2-1)。ワタリガラスは、近くにいるハシボソガラスよりも大形であること、くちばしが太くて長く、額の突出度合いが小さいなどの形態的特徴に加え、特徴ある鳴き声より、ハシボソガラスやハシブトガラスではなくワタリガラスと判断した。その後、この群れは沢の中ほどを流れる中俣川に沿って広がる水田に移動したので、追跡をしたが見失ってしまった。翌 3 月 11 日にも再調査を行なった。中張地内から中俣川添いをくまなく探したが、移動してしまったようで、ワタリガラスの混じった群れを発見することはできなかった。今回の発見が秋田県および本州からの初記録となった。

## 2. 能代市小友沼

JR奥羽本線東能代駅の南 1.5kmに位置する周囲 4km、面積58haの灌漑用水を供給するための溜池である。小友沼は、ヨシ *Phragmites communis* の侵入によって浅くなり、陸地化しつつある。三方を丘陵によって囲まれている沼は、地形的に季節風がまともに吹きこむので、年によって早い遅いはあるものの厳冬期の沼は全面凍結状態となるが、厳冬期前後の沼にはマガン *Anser albifrons*、ヒシクイ *A. fabalis*、オオヒシクイ *A. f. middendorffii*、オオハクチョウ *Cygnus cygnus*、コハクチョウ *C. columbianus*、カモ類やオジロワシなどが集まってくることから、1999年に東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワークに登録された。

2003年 3月 15日の14時15分ころ、2羽のオジロワシが、30cmほどのナマズを持って飛来し、小友沼氷上に下りた。しばらくして氷上にカラス類も集まりだした。ハシボソガラス 9羽、ハシブトガラス 3羽がまとわりついて獲物をねらっていた。

14時40分に近くの林からカッポン・カッポンと少し内にもった短い独特の鳴き声が聞こえてきた。しかし、その姿は確認できなかった。

15時05分に摂食を終えたオジロワシ 2羽が沼の南側のスギ林に移動すると、15時12分ころから、氷上に残されたナマズにカラス類がさらに集まりだした。アカマツ *P. densiflora* 林からゆっくりとした羽ばたきをしながら、大型のカラスが飛来し、氷上に下りた。少し遅れてもう 1羽が近くに下りた。ハ

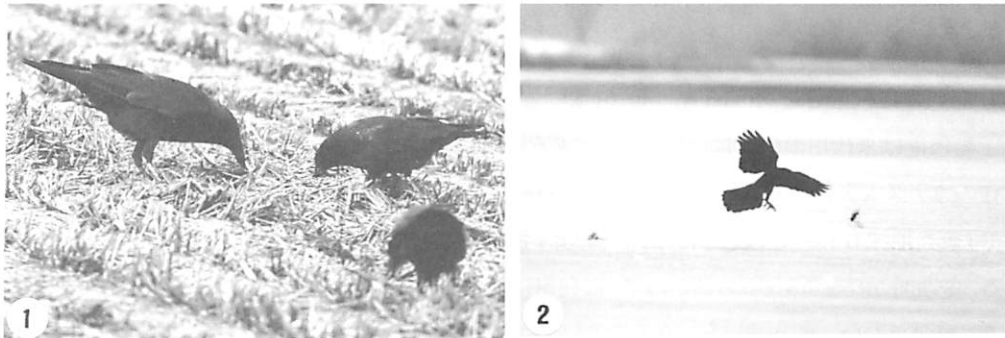


図 2. 秋田県で観察されたワタリガラス。①大内町(2002年 3月10日), ②小友沼(2003年 3月15日)

Fig. 2. The Ravens observed in Akita prefecture. 1: Ouchi-machi (March 10, 2002), 2: Otomo-numa (March 15, 2003).

シボソガラスと並ぶと、体がふたまわり大きく、飛翔すると中央尾羽が長く、くさび形に見えた(図 2-2)。氷上では喉が詰まっているようなグァララ・グァララと聞こえる鳴声を出した。鳴いているときには、胸の羽毛の毛羽立っていたことなどから、ワタリガラスと判断した。

ワタリガラスは残されていたナマズに向かって両足をそろえ、氷上をホッピングして近づいたり、翼を半開きにしたまま横に跳ねながら近づき、ハシボソガラスとハシブトガラスを追い払ってナマズを独占した。ナマズをついばんでいるとき、ほかのカラス類がよってくると頸を伸ばしながら激しく威嚇した。ナマズに両足をかけて押さえ込み、頸に力を入れ、一気に肉片を食い千切った。肉をその場で食べることはせず、肉を食い千切ると肉塊をくわえたまま飛び上がり、水平に飛んで沼から出ていき、木陰に姿を隠すようにして食べることが観察された。15時41分、57分、16時12分と何度か同じ行動をくり返した。つねに木陰に姿を隠すようにしていたので、ハシブトガラスやハシボソガラスに比べ警戒心が強いと思われた。16時55分になるとほとんどナマズは残っていない状態となった。

16時57分、ワタリガラスが尾と翼をいっぱい広げて飛び上がった。その後ゆっくり羽ばたいてから、大きく輪を描き上昇し、そののち北東方向に滑翔を始め、林に隠れて見失った。翌日(2003年 3月16日)も探索したが、ワタリガラスの姿は、沼からも周囲からも発見されなかった。

### 3. 秋田県南秋田郡若美町玉の池神社付近(40° 03'N, 139° 43'E)

若美町は男鹿半島のつけねに位置し、日本海に沿って弓なりに伸びていて八郎潟干拓地に隣接している町である。2001年 1月23日に日本在住のカナダ人夫婦によりこの町の玉の池集落でワタリガラスが観察されたという情報が寄せられた。この集落は、八郎潟干拓地との境界線、西部承水路にかかる野石橋と五明光橋とのなかほどに位置し国道 101号線添いにある。本種がとまっていたといわれる神社前の電線は、国道添いに南北に伸び、集落の中心部を走る国道の西側はクロマツ *Pinus thunbergii* の防風林、東側は国道と承水路の間が水田として広がっている環境であるが、証

拠となる写真などはなかった。

#### 4. 能代市能代港付近(40° 03'N, 140° 01'E)

能代港は米代川の河口に位置する港である。港の手前100m付近で、2001年 1月23日に日本在住のカナダ人夫婦によりワタリガラスが観察されたという情報が寄せられた。この付近一帯は風の松原(後谷地国固有林)とよばれる760haにもおよぶ海岸クロマツ林の中核をなしていて、面積も302haある。冬期間この一角をカラス類がねぐらに利用している(西出 1999)。この記録についても証拠となる写真等はない。

3と4の情報は仙台市の五十嵐敏明氏から秋田県支部の佐々木均氏に2001年 2月 4日に寄せられた。2001年 2月 5日から4日間、調査を行なったが、ワタリガラスは確認されなかった。

#### 5. その他の東北地方からの情報

いずれも証拠写真等のない未確認の情報であるが、以下のような記録がある。

- 1) 1998年11月13日, 15時15分ころ青森県弘前市茂森町付近でハシブトガラスの群れの中に紛れ込んでいるワタリガラス 1羽を中川直之氏が確認。これより少し前に弘前公園でも観察されていて同一個体の可能性がある(石沢友雄氏 私信)。
- 2) 1999年ころ青森県下北半島のアセスメント調査で、ワタリガラスが観察され、写真も撮影されているらしい(日本野鳥の会青森県支部からの情報)。

以上の結果から、1990年代後半から東北地方でワタリガラスと思われるカラス類の飛来情報が得られるようになったことがわかった。おそらく、東北地方にこの頃から越冬分布を拡大してきた可能性がある。ミヤマガラス *C. frugilegus* やコクマルガラス *C. dauuricus* が分布を拡大したことを考えると(嶋田・ボーマン 2001)、今後十分注意しながら観察する必要があると思っている。

#### 謝 辞

この報告をまとめるにあたって、匿名レフリーの方には、とりまとめにあたって貴重なご教示をいただいた。青森県十和田市の石沢友雄、石川県の中川直之、日本野鳥の会秋田県支部の佐々木均、奥村清明の各氏、青森県支部、弘前支部、盛岡支部からは貴重な情報を提供していただいた。以上の皆様に厚くお礼を申し上げる。

#### 引用文献

- 藤巻裕蔵. 1997. 北海道の野鳥. 北海道新聞社, 札幌.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸. 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
- 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 日本の野鳥. 山と溪谷社, 東京.

- 小林桂助. 1976. 原色日本鳥類図鑑. 保育社, 大阪.
- 清棲幸保. 1966. 野鳥の事典. 東京堂出版, 東京.
- 真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
- 西出隆. 1999. 秋田県内で記録された珍鳥・迷鳥・初記録の鳥. 探鳥あきた (41): 42-50.
- 嶋田哲郎・ポーマン アロン. 2001. 宮城県北部伊豆沼・内沼周辺におけるミヤマガラスの越冬状況. *Strix* 19: 197-199.
- 高野伸二. 1980. 野鳥識別ハンドブック. 日本野鳥の会, 東京.
- 高野伸二. 1981. 日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 寺沢孝毅. 2000. 北海道 島の野鳥. 北海道新聞社, 札幌市.

#### Records of Ravens in the main island of Japan

Takashi Nishide<sup>1</sup>, Eietsu Takeda<sup>2</sup>, Takako Abe<sup>3</sup>, Masao Satou<sup>4</sup> & Ko Funabashi<sup>5</sup>

1. 247-4 Sotooka Aza Sotookakita, Yamamoto-machi, Yamamoto-gun, Akita 018-2305, Japan
2. 1-6 iwase aza suginokozawa, Tashiro-machi, Kitaakita-gun, Akita 018-3501, Japan
3. 5-52 Araya Matsumicho, Akita city, Akita 010-1604, Japan
4. 3-11-23 Terauchi Hirune, Akita city, Akita 011-0904, Japan
5. 40-2 Wakimoto Aza Ishidate, Oga city, Akita 010-0342, Japan

In Japan, Ravens *Corvus corax* winter mainly in eastern Hokkaido Island, northern Japan, and have not been recorded in Honshu, the main island of Japan. On March 10 2002, we observed four Ravens among many Carrion Crows *C. corone* at Nakacho, a small village, in Akita prefecture. This was the first observation record of Raven in the main island of Japan. In addition, two Ravens were observed at Otomo-numa Pond in Noshiro city on March 15, 2003. They were among many Carrion Crows that were eating a part of a catfish left on the ice by a White-tailed Eagle *Haliaeetus albicilla*.

We received unconfirmed information that Ravens were observed around Tamanoike shrine and Noshiro port both in Akita prefecture on January 23, 2001. Including this unconfirmed record, Ravens have been observed in Akita prefecture for three years.

*Key words: Akita prefecture, Corvus corax, first record*